

成果の説明書

(氏名) 谷川卓	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>ヒューム主義的形而上学を追究する研究に引き続き取り組んでいる。今年度はとくに穴の存在論的身分をヒューム主義的形而上学の観点から明らかにする研究に集中的に取り組んだ。また、様相論の研究を本格化させることを計画しており、その準備として、これまでの可能世界論をあらためて見直す作業を行った。</p> <p>出版物</p> <p>・「書評：倉田剛著『日常世界を哲学する：存在論からのアプローチ』, 『科学哲学』53-2, pp.328-330, 2021年.</p> <p>【教育活動】</p> <p>今年度は授業をオンラインで行うことになったが、それは授業の実施方法についてあらためて考え直す機会にもなった。たとえば課題のフィードバックに関して Microsoft Teams を活用するといったことは今後の授業でも引き続き行うことにして、学生の授業理解が深まるような工夫をするようにしたい。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>【社会活動】</p> <p>高崎経済大学附属高校1学年対抗ディベートジャッジ, 2020年10月27日.</p> <p>【学会活動】</p> <p>論文査読1件</p> <p>【学内】</p> <p>教養教育委員 日本語部会 高崎経済大学経済学会理事 高崎経済大学経済学会学生懸賞論文査読1件</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>ヒューム主義的形而上学を追求する研究に引き続き取り組む。</p> <p>教育面では、授業の効果的な進め方について検討する。とくに次年度は、小テストやレポートを課すさいに Microsoft Teams 等をどのように利用したらよいかを検討して、授業の改善に努めたい。</p>	